

校長室より

第11号

# 「天空高き」



平成22年11月2日

## 巣立ちはじめた鷹の子達！～若鷹祭を終えて～

「今年のテーマは、“ We can do it ”です。みんなで“若鷹祭”へ向けて集中して取り組み、大成功させようという思いを込めました。最高の思い出になるように一人ひとりが頑張り、力を出し切りましょう！」

第9回若鷹祭パンフレットの冒頭に掲載されていた文章です。

まさに今回の若鷹祭、We can do it!見事に大成功でした。

「みんなで“若鷹祭”へ向けて集中して取り組み」とありますが、運動会での応援合戦でもそうでしたが、3年生を中心に1、2年生もよくまとまって、音楽の時間を中心に、担任団と一緒に一生懸命に練習に取り組んでくれました。事前準備の良さが本番でも発揮されました。



「大成功させようという思いを込めました。」は、生徒会長の山本周平君達の寸劇がすべてを語っていたと思います。

「最高の思い出」は今回の主役であった3年生の皆さんですね。

「一人ひとりが頑張り、力を出し切りましょう！」は、166名の生徒ですね。

私としては今回が初めての若鷹祭での音楽会でしたので、心配になって各学年、クラスの合奏、合唱の練習に顔を出していました。1年生には少し気合いを入れたお話もしました。しかし、本番では杞憂に終わりました。最初は1年生の合奏でしたが、落ち着いた演奏で良かったです。2年生の民謡は楽しむことができました。3年生の合奏と合唱は感動しました。

美しいメロディー・ハーモニーを奏でるために、みんなで心を一つにして、各パートは指揮者を信頼し、指揮者は各パートをリードし、一致団結して演奏することを願いました。「One for all All for one」「一人は皆の為に、皆は一人の為に」でした。お見事です。指揮者は感情豊かに各パートをリードし、見事なリーダーでした。拍手を送ります。

来場された保護者は皆さんの合奏や合唱に感動されていましたが、それを創り出したもう一つに、皆さん一人ひとりの鑑賞する姿勢の良さと入退場、そしてステージ上でのまとまりがあります。演奏者と鑑賞者の思いがひとつとなって感動が生まれたと思います。そして、それを演出していただいた、和田先生と赤川先生には感謝致します。

有志の部の演奏は、彼らの日頃の地道な取り組みの成果を見せていただきました。特に、ピアノ演奏はレベルの高さに驚きました。フルート演奏では彼の素朴さと誠実さを味わうことができました。グループ演奏では、5人組の一生懸命さと選曲の良さが鑑賞する側の生徒達の手拍子が自然発生的に起きて、素晴らしかったです。

英語暗唱大会では本校英語教育の長年の歴史と伝統を我々や保護者の方々に知らしめてくれました。講評のときにも話しましたが、9名の発表者は予選のときよりも格段し進歩していました。彼らは何十回、何百回と練習を積んでステージに上がったと思います。感銘を与えてくれた彼らに“アッパレ”です。

学習発表では、中1、中2、中3生ならではの感性とユニークなプレゼンテーションを披露してもらいましたが、各学年のテーマに対してのまとまりと我々、聴衆者に対するわかりやすさがあるもう工夫あれば、と思いました。来年度に期待したいと思います。

1年生の群読は初めての試みでしたが、彼らが10年、20年後に、ふと何気ないときに自然に口ずさむことがあると思います。その時になって改めて、その詩の奥深さが実感できるのではないかと思います。

ある保護者のアンケートに、「生徒がすすんでされたこと、立派でした。大成功です。」とありお褒めの言葉を頂戴しましたが、本当に素晴らしい若鷹祭でした。

3年生の皆さん。最後の最後まで、岩国短期大学講堂のイスやシートの後片付けや音楽室への楽器の運搬、大変でしたね。でも君達は嫌な顔も見せず、みんな笑顔で協力してくれました。ありがとう！裏方に徹して指導していただいた3年生の先生方にも心底感謝致します。

君達の事前準備の取り組み、そして本番、後片付け、本当に“立派でした。”後輩の1、2年生もきっと君達の意志を引き継いで、節目になる来年の第10回若鷹祭は一致団結してさらなる進化を見せてくれるものと期待しています。We can do it!

今回の一言 あきらめる勇気より、続ける勇気を選びたい

高水高等学校附属中学校 校長 前田 茂雄